

令和 8 年度第 1 回鹿児島県立図書館協議会資料

令和 7 年度

鹿児島県立奄美図書館運営に関する

点検及び評価結果

鹿児島県立奄美図書館 P 1 ～ 12

令和7年度 鹿児島県立図書館運営に関する点検及び評価結果

当館が策定している基本的運営方針を踏まえ、令和7年度の重点施策と関連する指標についての評価を実施し、その結果に基づく運営の改善を図ります。

【鹿児島県立図書館の目指す姿】

人づくりに貢献し、成長し続ける図書館～「知と知恵の拠点」を目指して～

【基本目標・重点施策】

<基本目標1：資料の充実とデジタル化の推進>

- 1 市町村立図書館等との役割分担を明確にし、県立の図書館として果たすべき役割を意識した効率的な資料の収集・整備に努めます。
- 2 県民の生涯学習や地域課題の解決を支援するため、利用者のニーズや鹿児島の地域性、社会や時代の変化等に対応した資料の整備と活用を図ります。
- 3 県内各地に保存されている貴重な郷土資料について、県内歴史研究会等との情報共有を図るなど、より積極的な収集・研究に努めるとともに、貴重資料を保存するための空間確保及び資料の防災対策に取り組みます。
- 4 貴重資料紹介展をはじめとする郷土資料の展示やデジタルアーカイブ化により、閲覧及び活用の促進を図ります。

〔重点施策〕

- 1 図書館資料の計画的な整備
- 2 郷土資料の網羅的な収集
- 3 郷土資料のデジタル化

<基本目標2：市町村立図書館等との連携強化>

- 1 両図書館がネットワークの中心となり、市町村立図書館をはじめとする県内図書館の蔵書の相互利用を活性化し、貸出文庫や相互貸借により他館の蔵書不足を補うなど、県内全域における図書館サービスの充実・拡大を推進します。
- 2 県内の市町村立図書館等に関する情報の積極的な収集に努め、ホームページを活用した情報の共有を図るとともに、各館の情報交流を推進します。
- 3 第5次鹿児島県子ども読書活動推進計画のもと、生涯を通じて読書に親しめるよう、親子読書会や読書グループ等の活動促進を啓発するとともに、市町村立図書館（室）及び学校等の関係職員を対象とした研修の充実を図り、子どもの読書活動を推進します。
- 4 両図書館が所蔵する郷土に関する貴重資料等について、大学や他の機関と連携した資料調査やアーカイブに関する調査・研究に努めます。

〔重点施策〕

- 1 市町村立図書館（室）支援の充実
- 2 ネットワークの構築
- 3 読書活動の推進

<基本目標3：個別最適なサービス機会の充実>

- 1 県民や利用者の多様なニーズに対応した高水準のサービスを提供できるよう、レファレンスツールの充実を図るとともに、レファレンス記録を蓄積し、アクセシブルな公開方法により、県民への課題解決に向けた情報提供に努めます。
- 2 両図書館が実施している団体貸出等のサービスについて周知を拡大し、制度の利用促進を図ります。
- 3 来館することが困難な利用者に対して、貸出・返却の郵送サービスを提供するほか、鹿児島県読書バリアフリー計画に基づき、録音図書の貸出や大活字本コーナーの充実、拡大読書器の提供、アクセシブルな電子書籍の導入等の取組を確実に実践し、誰もが読書を楽しむことができる環境の整備に努めます。

〔重点施策〕

- 1 課題解決支援・学習支援の充実
- 2 利用者に対応したサービスの充実
- 3 視覚障害者等の読書環境の整備の推進

<基本目標4：人と情報の交流拠点機能の充実>

- 1 県立の図書館としての役割と機能を県民にわかりやすく示しつつ、親しみやすい図書館として誰もが気軽に利用できるような雰囲気づくりに努めます。
- 2 両図書館が提供するサービスやイベント等に関する情報を、ホームページ・新聞・テレビ・ラジオ・SNS等の多様な媒体を効果的に活用し、より積極的な発信に努めます。
- 3 企画展や文学講座、講演会、生涯学習講座等の開催を通して、郷土鹿児島県の歴史や文化に対する県民の理解促進を図ります。
- 4 文化庁から国史跡「鹿児島城跡」として指定を受けた敷地にある県立図書館として、黎明館と連携しながら、所蔵する鹿児島城を含む郷土資料の更なる発信に努めます。
- 5 世界自然遺産に登録された奄美大島に位置する奄美図書館では、奄美群島の豊かな自然や文化・歴史に関する学びが深まるよう、所蔵する郷土資料の更なる発信に努めます。

〔重点施策〕

- 1 読書を媒体とした交流拠点機能の充実
- 2 情報発信力の強化
- 3 郷土の人・文化の理解と継承

<基本目標5：職員の資質向上>

- 1 市町村立図書館等の図書館職員の資質や技能の向上を支援し、全県的な図書館サービスの充実を図ります。
- 2 県民や利用者の多様なニーズに対応した高水準のサービスを提供できるよう、図書館職員の接遇、電話対応、レファレンス対応能力などの資質・能力の向上に努めます。

〔重点施策〕

- 1 図書館職員の資質向上支援
- 2 読書活動推進人材の育成

－評価基準－

評価	内 容	
A	非常に良好	計画どおりに実施でき、大きな成果が見られた
B	良好	計画どおりに実施できた
C	やや不十分	概ね計画どおりに実施できたが、一部が実施できなかった
D	不十分	計画どおりに実施できなかった

基本目標Ⅰ「資料の充実とデジタル化の推進」

- 1 市町村立図書館等との役割分担を明確にし、県立の図書館として果たすべき役割を意識した効率的な資料の収集・整備に努めます。
- 2 県民の生涯学習や地域課題の解決を支援するため、利用者のニーズや鹿児島県の地域性、社会や時代の変化等に対応した資料の整備と活用を図ります。
- 3 県内各地に保存されている貴重な郷土資料について、県内歴史研究会等との情報共有を図るなど、より積極的な収集・研究に努めるとともに、貴重資料を保存するための空間確保及び資料の防災対策に取り組みます。
- 4 貴重資料紹介展をはじめとする郷土資料の展示やデジタルアーカイブ化により、閲覧及び活用の促進を図ります。

Ⅰ 令和7年度の取組状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	図書館資料の計画的な整備	・利用者ニーズを常に把握し、県民の調査相談に資するための図書館として、また保存図書館としての資料の収集に努める。 ・スポンサーとの信頼関係を築くため、図書館の利用状況等について、スポンサーへの定期的な情報提供に努める。 ・計画的な蔵書管理に努める。	・資料収集方針に基づき、計画的な購入と郷土資料の積極的な収集・整備を行うとともに、適切な除籍を行った。 ・雑誌については、スポンサー制度により、11団体から14誌の提供を受けている。 ・収容スペースの確保を図りながら、計画的に約4千冊を受け入れた。	B
2	郷土資料の網羅的な収集	・郷土資料については、郷土の文化遺産として永く後世に伝えていくために積極的に収集する。 ・貴重資料の防災対策に努める。	・県政情報センターや市町村と連携し、行政資料や郷土誌をはじめ、奄美・沖縄関係の資料の充実に努めた。 ・特別書庫の適切な管理を継続し、貴重資料の保存環境の維持に努めた。	B
3	郷土資料のデジタル化	・郷土新聞等の保存及び利用の促進を図るため、計画的にデジタル化を進める。 ・デジタル化した貴重資料をホームページ上のデジタルアーカイブに掲載する。	・郷土新聞について、令和6年度まではマイクロフィルム化していたが、令和7年度からデジタル化へ移行した。	B

2 指標の達成状況

	指標	目標値	実績値	達成割合
1	蔵書冊数	261,500 冊	260,026 冊	99.4%
2	郷土資料の蔵書冊数	49,400 冊	49,195 冊	99.6%
3	郷土資料のデジタル化進捗率	53.1%	53.6%	101.0%

3 評価と今後の取組について

令和7年度の蔵書冊数については、計画的な購入と郷土資料の積極的な収集と併せて、適正な除籍を実施したため、目標値には若干届かなかったものの一定の成果が見られた。

郷土新聞については、令和7年度からデジタル化を実施しており、保存図書館としての役割を踏まえつつ、広く県民が活用できるよう努めていきたい。

今後も、生涯学習を支えるサービスの充実と資料収集・情報提供等を通して、県民のニーズに応えながらサービスを提供してまいりたい。

基本目標 2 「市町村立図書館等との連携強化」

- 1 両図書館がネットワークの中心となり、市町村立図書館をはじめとする県内図書館の蔵書の相互利用を活性化し、貸出文庫や相互貸借により他館の蔵書不足を補うなど、県内全域における図書館サービスの充実・拡大を推進します。
- 2 県内の市町村立図書館等に関する情報の積極的な収集に努め、ホームページを活用した情報の共有を図るとともに、各館の情報交流を推進します。
- 3 第5次鹿児島県子ども読書活動推進計画のもと、生涯を通じて読書に親しめるよう、親子読書会や読書グループ等の活動促進を啓発するとともに、市町村立図書館（室）及び学校等の関係職員を対象とした研修の充実を図り、子どもの読書活動を推進します。
- 4 両図書館が所蔵する郷土に関する貴重資料等について、大学や他の機関と連携した資料調査やアーカイブに関する調査・研究に努めます。

1 令和7年度の取組状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	市町村立図書館（室）支援の充実	・県立図書館と市町村立図書館（室）と情報を共有するとともに、連携を密にし、各館（室）における利用者サービスの向上を促進する。 ・横断検索システムを活用した県内各図書館（室）との相互貸借の業務が円滑に行われるよう努める。 ・貸出文庫により、小・中学校等の公共施設が希望する図書の貸出に努める。	・大島地区図書館ポータルサイトを開設し、地区内の図書館（室）との連携強化に努めた。 ・相互貸借冊数については、前年度とほぼ同数であり目標値に届いていない。 ・居住地返却の利用が広がったことにより、居住地返却件数は前年度を上回った。 ・貸出文庫により小・中学校等が希望する図書を貸し出し、児童・生徒の読書環境の充実を支援した。その結果、貸出冊数が前年と比べ増加した。	B
2	ネットワークの構築	・システム管理に努めるとともに、システム活用に関する利用規則等の職員への周知・指導の徹底を図る。 ・横断検索システムへの参加・利用促進を図る。	・横断検索件数は、30,219件で93.0%の達成率であり、横断検索の利便性が利用者ニーズに合致してきていると言える。 ・利用促進については、県図書館協会の総会・理事会等を通じて行った。	B

3	読書活動の推進	・モデル図書室としての児童閲覧室の充実を図る。 ・「お母さんとお父さんのための読み聞かせ教室」を通して、親子読書の進め方や親子読書活動の在り方等について学ぶ機会を提供する。 ・「心も体もイキイキ！音読教室」において、大人向けの読書活動支援を行う。	・県子ども読書活動推進計画を踏まえ、児童閲覧室資料の充実を図るとともに、季節やテーマに沿った展示を行い、子どもの読書活動の充実に努めた。 ・主に乳幼児の保護者を対象とした読み聞かせ教室を実施し、家庭における読書活動の推進を図った。 ・65歳以上のシニアを対象に、近代文学や古典、絵本など幅広い分野の作品を取り上げ、参加者が作品の魅力を味わいながら、読書に親しむ機会を提供した。	B
---	---------	---	--	---

2 指標の達成状況

	指標	目標値	実績値	達成割合
1	相互貸借冊数	2,730 冊	2,439 冊	89.3%
2	貸出文庫	1,440 冊	1,900 冊	131.9%
3	横断検索件数	32,500 件	30,219 件	93.0%

3 評価と今後の取組について

貸出文庫・相互貸借・居住地返却に関する利用者アンケートでは、85.2%が「満足・やや満足」と回答しており、前年度に引き続き、好意的に受け止められている。引き続き、市町村立図書館（室）の蔵書不足を補うことも考慮した選書・蔵書構成に努めていきたい。

また、貸出文庫については毎年利用する団体があるなど定着が図られているが、認知不足の側面もあるため、直接管内の学校等を訪問して広報するなど、市町村立図書館（室）との連携強化に努めてまいりたい。

基本目標 3 「個別最適なサービス機会の充実」

- 1 県民や利用者の多様なニーズに対応した高水準のサービスを提供できるよう、レファレンスツールの充実を図るとともに、レファレンス記録を蓄積し、アクセシブルな公開方法により、県民への課題解決に向けた情報提供に努めます。
- 2 両図書館が実施している団体貸出等のサービスについて周知を拡大し、制度の利用促進を図ります。
- 3 来館することが困難な利用者に対して、貸出・返却の郵送サービスを提供するほか、鹿児島県読書バリアフリー計画に基づき、録音図書の貸出や大活字本コーナーの充実、拡大読書器の提供、アクセシブルな電子書籍の導入等の取組を確実に実践し、誰もが読書を楽しむことができる環境の整備に努めます。

1 令和7年度の取組状況

	重 点 施 策	取 組 状 況		評 価
		計 画	実 績	
1	課題解決支援・学習支援の充実	・郷土に関する事項の件名やレファレンス事例の電算入力、パスファインダーの作成等、レファレンスツールの充実に努める。 ・課題解決支援・学習支援等の図書館サービスの機能向上・充実を図る。	・レファレンス件数は、目標達成率 82.9%であったが、利用者アンケートにおいてはレファレンスサービス利用者の 97.4%が「満足・やや満足」と回答しており、県民や地域の課題解決支援への役割を十分果たしていることがうかがえる。 ・多様な利用者のニーズに対応するため、課題解決支援コーナーを増設し、充実を図った。	B
2	利用者に対応したサービスの充実	・団体貸出サービスの周知を進め、多様な利用者・団体への利用促進を図る。	・これまで小学校の学級単位での利用が中心であったが、周知を進めたことで福祉関係施設からの団体貸出の利用が増加した。	A
3	視覚障害者等の読書環境の整備の推進	・多様な文化に対応したサービスの提供に努めるとともに、読書バリアフリーコーナーの設置や障害者サービスのリーフレット作成、国立国会図書館の視聴覚障害者等用データサービスへの参加など、読書バリアフリーの普及に努める。 ・電子書籍については、非来館者や障害者サービスの向上のため、必要な情報収集等に努める。	・5月に当館で開催した「大島地区図書館連絡会議」にて、読書バリアフリーに関する研修を実施し、障害者サービスの意識向上を図った。 ・大活字本等のアクセシブルな書籍について、計画的な資料整備を進めた。 ・利用者アンケートに電子書籍の導入希望があったが、当館でも令和7年度から電子書籍の導入を始めることで非来館サービスの充実を図った。	B

2 指標の達成状況

	指標	目標値	実績値	達成割合
1	レファレンス受付件数	3,550 件	2,942 件	82.9%
2	団体貸出件数／冊数	9 件/130 冊	10 件/835 冊	111.1%/ 642.3%
3	バリアフリー図書資料数	1,120 冊	1,170 冊	104.5%

3 評価と今後の取組について

利用者アンケートにおけるレファレンスの満足度は97.4%が「満足・やや満足」と回答しており、県民や地域の課題解決支援への役割を十分果たしていることがうかがえる。また、Webからのレファレンス申込みについて、令和8年3月のホームページリニューアルにより、利便性が向上した。引き続き様々な機会を捉え、レファレンスサービスの広報・周知に努めていきたい。

団体貸出については、目標値を上回る貸出冊数となり、県内の図書館（室）への資料提供による支援を確実に進めることができた。今後も、県内の各公共図書館(室)の中心となり、当館における貸出業務の充実を図るとともに、団体貸出による支援を継続する。

バリアフリー図書資料数については、読書バリアフリー法や県読書バリアフリー計画を踏まえ、大活字本を中心に蔵書の充実に努めた。

今後も、個別最適なサービス機会の充実に向けて取り組んでまいりたい。

基本目標 4 「人と情報の交流拠点機能の充実」

- 1 県立の図書館としての役割と機能を県民にわかりやすく示しつつ、親しみやすい図書館として誰もが気軽に利用できるような雰囲気づくりに努めます。
- 2 両図書館が提供するサービスやイベント等に関する情報を、ホームページ・新聞・テレビ・ラジオ・SNS等の多様な媒体を効果的に活用し、より積極的な発信に努めます。
- 3 企画展や文学講座、講演会、生涯学習講座等の開催を通して、郷土鹿児島県の歴史や文化に対する県民の理解促進を図ります。
- 4 文化庁から国史跡「鹿児島城跡」として指定を受けた敷地にある県立図書館として、黎明館と連携しながら、所蔵する鹿児島城を含む郷土資料の更なる発信に努めます。
- 5 世界自然遺産に登録された奄美大島に位置する奄美図書館では、奄美群島の豊かな自然や文化・歴史に関する学びが深まるよう、所蔵する郷土資料の更なる発信に努めます。

1 令和7年度の実施状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	読書を媒体とした交流拠点機能の充実	・機器等の定期点検を実施し、必要な措置を講じ、利用者の安全確保に安全を期する。 ・研修室の活用促進を図る。 ・様々なイベントや企画展を通して県民の読書意欲の喚起に寄与する。	・令和7年度から2カ年事業で照明設備のLED化を実施し、安定的な明るさの提供を進めている。 ・研修室の貸出促進を図るため、申請方法の電子化を実施することにより、目標値を達成した。 ・「クリスマスおはなし会」や「心も体もイキイキ！音読教室」のイベントや講座、郷土企画展など幅広い年齢層を対象とした交流の場を設けた。	B
2	情報発信力の強化	・地元新聞社等への情報提供や地元FMラジオ局への出演を積極的に行い、報道機関との連携強化に努める。 ・広報紙「奄美図書館だより」やホームページ、Facebook、Instagramの内容の充実を図り、積極的な情報発信に努める。 ・ミニ展示や特別展示（郷土コーナー企画展）を行い、県民の生涯学習の一助とするともに、図書館利用の促進につなげる。	・主催事業のたびに、地元新聞社等へ積極的に広報へ出向き、広く周知を図った。 ・定期的にSNSに掲載することで、フォロワー数が前年度から100件増加した（761件）。 ・展示について、時宜を得たテーマを設定して実施するとともに、SNSを活用して情報発信を行った。展示内容の周知を図ることで、県民の当館への興味・関心を高め、図書館利用の促進につなげた。	A

3	郷土の人・文化の理解と継承	・県民の学習意欲やニーズに応じたテーマで構成する「あまみならでは学舎」を実施する。 ・初代県立図書館奄美分館長である島尾敏雄の記念室企画展や講演会を行い、県民の生涯学習の一助とする。	・全7回の「あまみならでは学舎」においては、自然や郷土、農業等の多分野から講師を招き、生涯学習の場の提供に努めた。 ・島尾敏雄記念室企画展や郷土コーナー企画展を実施した結果、参加者数はほぼ目標値を達成した。	B
---	---------------	--	--	---

2 指標の達成状況

	指標	目標値	実績値	達成割合
1	研修室利用件数	180 件	187 件	103.9%
2	ホームページアクセス数	527,000 件	503,500 件	95.6%
3	資料展等の参加者数	530 人	528 人	99.6%

3 評価と今後の取組について

開館 16 年を経過し、施設設備の一部老朽化も見られることから、利用者の安全面を最大限考慮した修繕を実施していきたい。

研修室の利用については、申請方法を電子化したことにより、当館の事務や申請者の利便性が大きく向上したことが、利用件数の増加につながっていると考えられる。

SNS における発信については、事業の大小に関わらず、積極的に発信することを心掛けていく取組がフォロワー数の増加につながっていると考えられる。今後も積極的かつ戦略的に情報発信していきたい。

あまみならでは学舎については、様々な分野の方を講師に招き、特別編も含め全 7 回実施した。毎年参加者の関心が高い事業であることから、ニーズを把握しながら継続していきたい。

郷土コーナー企画展では、奄美の発展に尽力した人物等を紹介する展示であり、郷土資料の更なる発信に努めた。

今後も、生涯学習講座や特別展示の開催を通して、県民が生涯にわたって読書に親しみ、郷土の人や文化を理解し継承する心を育んでまいりたい。

基本目標 5 「職員の資質向上」

- 1 市町村立図書館等の図書館職員の資質や技能の向上を支援し、全県的な図書館サービスの充実を図ります。
- 2 県民や利用者の多様なニーズに対応した高水準のサービスを提供できるよう、図書館職員の接遇、電話対応、レファレンス対応能力などの資質・能力の向上に努めます。

1 令和7年度の取組状況

	重 点 施 策	取 組 状 況		評 価
		計 画	実 績	
1	図書館職員の資質向上支援	・市町村立図書館（室）・学校図書館関係職員を対象とした講座を実施する。 ・主催事業や学校訪問の機会を活用して、市町村立図書館（室）や学校図書館を訪問するとともに、来館研修を受入れるなど、市町村や各種団体等を支援する。 ・職員研修を実施し、接遇、危機管理、業務全般について職員の資質向上を図る。	・「図書館ボランティア養成講座」、「読書指導者等研修会」及び「図書館講座」への参加者の実績については、目標値の 110 人を 32 人下回った。 ・奄美市学校司書研修会で講師を務めるなど、各地で実施される研修へ職員を派遣するとともに、来館研修を受け入れるなど、市町村等を支援した。 ・毎年実施している自衛消防訓練に加え、不審者対応訓練やハブ咬傷対応訓練を実施し、危機管理の意識を高めた。 ・オンライン研修を多く取り入れ、立地上の制限がある中で工夫しながら研修に努めた。	C
2	読書活動推進人材の育成	・家庭・地域・学校の関係者等、幅広い年代を対象に読書活動に関する知識と技能の向上を図る研修会を実施する。 ・ボランティアの受入れとともに、活動の支援を行う。	・「図書館講座」を与論町で実施し、読み聞かせに関する内容で地域のニーズに合わせた研修となり、満足度が高かった。 ・高校生から一般まで、11 人がボランティアに登録したが、目標の 20 人には届かなかった。	C

2 各種指標の達成状況

	指標	目標値	実績値	達成割合
1	講座・研修等への参加者数	110人	78人	70.9%
2	講座等に対する参加者の満足度	100%	100%	100%
3	ボランティア登録者数	20人	11人	55%

3 評価と今後の取組について

「読書指導者等研修会（瀬戸内町開催）」及び「図書館講座（与論町開催）」の参加者数については、目標値には達しなかったものの、いずれも地域のニーズを汲み取った内容で実施することができた。今後も、公共図書館職員等の資質向上につながる研修機会として、内容の充実を図りながら継続してまいりたい。

「ボランティア養成講座」の参加者は昨年度をやや下回り、登録者数も目標値に届いていないが、当館におけるボランティア参加人数は、前年度に比べ延べ人数で13人増加した（159人→172人）。このことから、高い意識がうかがえることから継続的に取り組んでいきたい。

講座等の参加率は、緩やかな復調傾向にあり、満足度も非常に高いことから、引き続き図書館職員の資質向上に努めてまいりたい。